

【研修報告】

第17回アジア太平洋呼吸器学会（APSR 2012） に参加して

川 根 博 司*

はじめに

第17回アジア太平洋呼吸器学会（17th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology: APSR 2012）が2012年12月14日から16日までの3日間、中華人民共和国・香港で開催された。今回の APSR 2012 の会場となった香港コンベンション&エキシビション・センター（香港会議展覽中心）は、香港特別行政区の香港貿易發展局が有する会議および展示施設である。1997年7月1日に行われた香港返還の式典は、この新翼棟（写真1）で行われたそうである。但し、学会自体は超高層ビルのある旧翼棟のほうで開かれた。



写真1 香港コンベンション&エキシビション・センター

学会前日の13日朝に広島空港から9:00発チャイナエアライン機で飛び立ち、台北で乗り換えて、香港国際空港には現地時間（日本との時差は1時間）午後3時半過ぎに到着した。香港へは二度目の訪問であるが、前ははまだ香港がイギリス領だった1981年のことであり、街が大きく様変わりしているのは当然とはいえ、その変貌ぶりは予想以上であった。

筆者は学会最終日のポスターセッションにおいて、DESCRIPTION OF SMOKING/NONSMOKING

IN MEDICAL AND DENTAL TEXTBOOKS PUBLISHED IN THE MEIJI ERA(1868-1912) IN JAPAN（わが国の明治期の医学書・歯学書における喫煙／禁煙に関する記述）を発表した。本稿では、アジア太平洋呼吸器学会（APSR）の概要を紹介しながら、発表内容を簡単に述べる。

アジア太平洋呼吸器学会（APSR）について

日本胸部疾患学会（現・日本呼吸器学会）は、国際化への対応を進めるため、APSRの発足に努力して1988年に第1回 APSR 総会を東京で開催した。19カ国から600人が参加したが、若かりし筆者も感染症は専門分野ではないのに、肺炎のワークショップに駆り出され、冷や汗をかきながらしゃべったのを懐かしく思い出す。2002年からは毎年開催されるようになり、2008年には第13回 APSR がタイ・バンコクにおいて開かれたが、筆者はラジオで行った禁煙キャンペーンの経験について発表した（川根、2010）。ちなみに、来年の第18回 APSR は日本の横



写真2 アジア太平洋呼吸器学会の広報ブース

* 1 日本赤十字広島看護大学

浜で開催されることになっており、会場の一角に設けられた APSR のブースで大々的に広報されていた (写真2)。

学会発表の内容

筆者らはこれまで、明治期の看護教科書において喫煙／禁煙に関してどのように記述されているのかを調査し、学会で発表してきた (川根, 2012)。そして、大正期の看護教科書についても調べ、それらの研究成果を日本禁煙学会雑誌に報告することができた (川根, 渡辺, 竹下, 2012)。

今回は、明治期の医学書・歯学書における喫煙／禁煙に関する記述について調査を行い、興味ある結果が得られたので発表することにした。まず、明治時代 (1868～1912年) の出版物のうち、国立国会図書館近代デジタルライブラリーで公開されている医学書・歯学書を収集した。これらの書物を閲覧して、喫煙／禁煙に関する記述を探し、35種類の医学書と5種類の歯学書を解析対象にできた。

喫煙に関する一番古い記載は、1872年 (明治5年) に出版された『内科摘要』に出ている「心臓肥大症が過度のコーヒー・酒・煙草等によって誘発される」、「心悸亢進症は酒・コーヒー・煙草を過飲すると起こる」というものであった (図1)。次いで1880年 (明治13年) 出版の『医家断訟学』にはタバコ、ニコチンについて述べられており、ニコチン中毒が取り上げられていた。『衛生保歯問答』(1890年・明治23年) はタバコと歯牙との関係として、喫煙の害だけでなく、嘔みタバコや嗅ぎタバコについても

述べてあった。『眼科衛生学』(1894年・明治27年) はタバコと弱視、視神経炎について触れていた。『医学的教育的小児衛生学』(1902年・明治35年) では明治33年制定の未成年者喫煙禁止法について記載されていた。

いくつかの内科学・内科書で、喫煙と狭心症、心筋梗塞、動脈硬化、アテロームなどの関係が書かれていた。一方、喫煙者に喉頭炎、食道癌が多いとの記述もあったが、肺気腫、肺癌との関係はまったく述べられていなかった。タバコと癌の関連といえば、歯学書には、白斑、口唇癌、舌癌、顎骨癌腫が挙げられていた。

禁煙に関しては、患者に対し「喫煙を禁じる」としている書物もあったが、命じるだけで具体的な支援策はなかったようである。しかしながら、100年以上前の医学書において、現在確証されている喫煙と病気、特に心血管疾患との関係が記述されていたことは特筆に値する。古くから身体に悪いと指摘されているにもかかわらず、現在もまだ多くの人がタバコを吸っており、すべてのヘルスプロフェッショナルは禁煙推進活動に一層取り組む必要がある。

なお、APSR 2012 で発表した演題の要旨は、学会誌に英文抄録が掲載されていることを記しておく (Kawane, Watanabe, Takeshita, 2012)。

おわりに

香港は中国に返還された後も、香港特別行政区として一国二制度下にあることはよく知られている。世界屈指のビジネス拠点であり、ショッピングや食



図1 『内科摘要』(明治5年発行)にあるタバコの記述

通の街として栄え、世界中の観光客が訪れる。総じて堅調な経済成長を遂げてきたといえるが、政治的、社会的に様々な矛盾を抱えているのは明らかである。今回の APSR 2012 も学会事務局（というよりも主催者）にいろいろな不手際があった。演題登録期限が延長される前にアブストラクトを提出していたのに、アクセプトの通知が予定よりも遅れるし、ポスター・プレゼンテーションの日時・場所の案内があったのは何と12月5日のことで、出発直前までやきもきさせられた。日本からアブストラクトを出したにもかかわらず、学会参加を断念した人を知っているが、学会会場で受け取った抄録集を見ると空白が目立つのは、それだけキャンセルがあったということであろう。また展示スペースの場所や配置も悪く、ポスターが張られていないパネルも多かった。香港会議展覧中心という会場（ハード面）は立派だったが、それを利用する学会開催者側（ソフト面）は大いに問題であった。

香港の禁煙事情であるが、2007年1月1日より、オフィスやショッピングモール等、公的な場所での喫煙を取り締まる禁煙条例が正式に施行されている。香港では「禁煙」のことを「禁止吸煙」というが、これらの表示区域および禁煙該当エリアでタバコを吸った場合、違反者には最高で5,000 香港ドル（約55,000円）の罰金が科せられる。宿泊したホテルはもちろん禁煙ルームであったが、チェックインする際に、もしタバコを吸った場合は罰金を払うという書類へのサインを求められた。写真3は部屋にあった卓上表示板であるが、クリーニング代として1泊分の宿泊代金を徴収することが明記されている。空気のきれいなホテルに泊まり、部屋から見る「100万ドルの夜景」で有名な香港島の夜景は壮観であった。クリスマスシーズンなので、ビクトリア・ハーバー沿いに立つビルには特別のイルミネーショ



写真3 ホテルの部屋にあった禁煙の卓上表示板

ンが施されていた。

禁煙条例はタバコの表示および広告についても厳しく規制している。タバコの箱には写真入りの警告表示が義務づけられており、2009年11月以降、タバコの広告は全面的に禁止された。香港内へのタバコの持ち込みに対する規制も強化されており、紙巻きタバコは19本まで、つまり1箱未満ということになった。こうした法令による喫煙規制はタバコ増税とともに、具体的な成果として表れている。1990年代初頭には23%あった香港人の喫煙率は、2010年は西太平洋地域で最低の12%にまで低下し、世界保健機関（WHO）から表彰されるに至ったという。

香港では建物内はタバコの煙・臭いがなく非常に快適だったが、出入口付近や路上での喫煙がひどかった。路上にはかなりの数の灰皿（ゴミ箱兼用）が設置してあり、ほとんどは中国からの観光客と思うが歩きタバコも結構いて、それらを避けて歩くのに苦勞するほどだった。観光名所のウォーターフロント・プロムナードにも喫煙所が設けてあったが、アベニュー・オブ・スターズの記念撮影スポットであるブルース・リー像の前で、タバコに対する闘いのポーズを取ってみた（写真4）。わが国も法律だけでは香港を見習って、受動喫煙防止条例（いわゆる禁煙法）が早く策定・施行されることを切に望む。



写真4 ブルース・リー像の前で

謝 辞

今回の国際学会に出席する機会を与えて下さいました本大学および関係者の方々に感謝いたします。

文 献

川根博司（2010）. 第13回アジア太平洋呼吸器学会（APSR）に参加して. 日本赤十字広島看護大学紀要, 8, 73-75.

川根博司（2012）. 米国胸部医学会のCHEST 2011

に参加して. 日本赤十字広島看護大学紀要, 12, 105-107.
川根博司, 渡辺さゆり, 竹下直子 (2012). 明治・大正期の看護教科書における喫煙/禁煙についての記述. 7, 116-122.

Kawane, H., Watanabe, S., Takeshita, N. (2012). Description of smoking/nonsmoking in medical and dental textbooks published in the Meiji era (1868-1912) in Japan. *Respirology*, 17(Suppl.2), 142.